

第二次地域福祉活動計画

計画期間: 2019年4月1日から2024年3月31日まで (5 年計画)

2022年度実行計画進行管理



取手市社会福祉協議会

Toride city council of social welfare

とりでYOU・Iのまち

「とりでYOU・Iプラン」の進行管理

1 目的

この方針は、「とりでYOU・Iプラン」（以下「プラン」という。）を効果的かつ効率的に推進するため、プランに基づく様々な取り組みについて検証し、継続的に改善することによりプランの円滑な進行管理に資することを目的とする。

2 進行管理の対象

(1) 行動計画の評価

- ・実施項目において、成果の評価及び今後の方向性について個別評価を行う。
- ・評価結果は、実施項目シート毎に記入する。

3 進行管理の実施体制

(1) 事業所及び担当者の役割

- ・実施項目の企画・実施にあたる担当者が、実施項目毎に成果を評価し、今後の計画の進行状況を確認・見直しをする。
- ・担当者が行った進行管理について、事業所内で共有化し評価・検討する。また、必要に応じて実施項目の担当者の評価を基に振り返りを行い、事業所としての評価としてまとめるとともに、課題を明らかにし、共通理解を図りその解決方法を検討する。
- ・行動計画の進行進捗状況について、年度内に取手市社会福祉協議会運営委員会に報告し、助言を受けることとする。
- ・助言等を受け行動計画の修正を図り、年度末にその状況等を取手市社会福祉協議会運営委員会に報告する。

4 評価の基準

(1) 成果状況の評価基準

評価区分	成果内容
5	順調に計画通り進行した
4	概ね順調だが不十分な点が少しあった
3	実施されている部分もあるが不十分な点も多い
2	既に実施予定の時期であるが、まだ取り組んでいない
1	実施方法も含め事業実施に再検討が必要であり、取り組んでいない

※年度当初に作成する、年間の事務事業執行計画に対しての成果状況とする。

5 進行管理の実施時期

(1) 成果状況評価

- ・1月中旬に（4月～3月見込み実施分）の成果状況の評価を実施する。

(2) 今後の計画の進行状況を確認・見直し

- ・年度末（1月中旬）に1回実施する。
- ・担当者及び事業所が行った評価結果について、1月の事業所連絡会議において確認・検証する。

6 進行管理の実施結果

- ・進行管理の実施結果については、取手市社会福祉協議会運営委員会及び理事会・評議員会に報告する。
- ・進行管理の実施結果については、必ず担当者が次年度担当者に引き継ぐ。

第二次地域福祉活動計画（とりでYOU・Iプラン） 令和3年度実行計画進行管理

1. 基本方針

第二次地域福祉活動計画が始まり、「市民ひとりひとりが、その人らしく地域で安心してらせる福祉のまちづくり」という基本理念のもと、市、地域団体、市民の協働により、地域課題を解決するべく市民全体で取り組んで行けるような、住民主体の仕組みづくりを目指します。

とりでYOU・Iプランは、第二次計画4年目となり、引き続き5つの行動目標に対して市内で行われている、市、団体等の事業、行事等を調査、把握し、行政や福祉関連の団体・事業所との密接な連携を図り、効率的・効果的な行動計画の進行管理に努めてまいりました。

2. 令和4年度の取り組み

新型コロナウイルスの感染拡大の影響はいまだ収束という状況には難しい状況ではありますが、今年度は長く続くコロナ禍で低迷していた地域での交流活動については、高齢化が進む中で体力や認知機能の低下につながるため、活動制限が徐々に緩和してきました。

今まで中止になっていたイベント関係および地域での行事も再開し始め低迷していた地域交流活動も徐々に行われてきています。

今年度の地域福祉活動計画は、計画を推進するにあたり、情報収集については、対面での調査のほか電話やアンケートによる調査など工夫を凝らして行いました。

地域での「子育て支援の促進」について自治会・町内会での世代を超えた交流活動や子どもの居場所づくりについては子育て支援センターへの取材のほか実際の活動の状況を知るため2ヶ所のこども食堂で通常の活動及びイベントに参加し、実情把握に努めました。

学生や若者へのボランティアについては障害者施設への学生の受け入れについての促進、今後の施設での福祉体験についての説明をし、若年層のボランティア育成についても推進しました。

さらに若年層のボランティアについては主に子ども食堂のボランティアしている高校生のふれあいサロン「ひとつ空の下でUNSAM」の活動が大きく飛躍し、地域のボランティアと協働し、学習支援のふれあいサロンを立ち上げ高校生が地域の方と共同代表を務めています。

新たな取り組みとしてコロナ禍での活動は引き続きオンラインでの活動が行われ福祉まつりでは、オンライン体験コーナーも設けられました。昨年度立ち上がった、会場で参加する(リアル)とオンライン参加の併用のハイブリット型のふれあいサロンも継続して活動を続けていて新しい地域交流の仕組みも進んでいます。

地域の活動については、コロナ禍でも災害への備えとして防災訓練を行う地域やサロン活動など地域の絆を絶やさないような取り組みも続いています。今後も感染予防は行なくてはなりません、高齢者の認知機能の低下も懸念されることから、できる限りの活動の継続が望まれます。

様々な場面でオンラインを活用して会場での交流との併用など新たな仕組みづくり、より良い地域づくりのための活動を開拓して、地域福祉活動計画にも反映させていきたいと考えます。

新しい生活様式は我々市民一人一人が受け入れ、取り入れていかなければならないものでもあります。取手市の地域性に合った活動を調査研究し、住民主体の仕組みづくりに一層取り組んでいきたいと思えます。

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和4年度			
担当者	職名	主幹	氏名	寺田篤史
該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう、知らせよう—情報の共有促進	
	取り組み	①	福祉に関する情報の共有促進と理解者の拡大	
現状と課題	<p>地域包括支援センターや自治会・町内会等主催の座談会や勉強会、行政や社協、NPO団体やボランティア団体の講座開催などコロナ禍においても情報を発信しながら地域のコミュニティの構築をしていこうという動きが見られました。今後、コロナが落ち着いていく中でアフターコロナとしてどのように情報発信や啓発活動を活発化していくのか、また将来の福祉の担い手の育成に向けて若い世代に魅力のあるイベントをどのように行っていくのかを調査していきたいです。</p>			
事業・業務の具体的内容等 (何をいつまでにどのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>(1) 市民福祉ニーズについて調査します。 ・実施内容：ワークショップ・座談会等の把握（地域課題の集約、地域の特徴を把握する） ・実施期間：令和5年3月末まで ・達成目標：収集した情報のまとめ</p> <p>(2) 若年層の参画を促す魅力あるイベント等を開催し、若年層の福祉への参画を目指します。 ・実施内容：若年層をターゲットに入れたイベント等の現状の把握 ・実施期間：令和5年3月末まで ・達成目標：収集した情報のまとめ</p>			
令和4年度の実施状況	<p>取手市内の地域包括支援センター5圏域（はあとぴあ、緑寿荘、さらの杜、藤代なごみの郷、社会福祉協議会ふじしろ）にアンケートを送付し、地域の福祉の現状の把握を行いました。</p> <p>(1) ワークショップ・座談会等の把握（地域課題の集約、地域の特徴など） 地域包括支援センターで開催している事業や活動としては、講演会、オレンジカフェ、高齢者の集い、出前講座など活発に活動している様子が見受けられました。座談会の開催については、地域の支えあいづくりの推進協議会や福祉事業所との連絡会などの活動が見受けられました。また、地域の課題としては近隣との交流が希薄になっていることが各支援センター共通の問題となっているようでした。</p> <p>(2) 若年層をターゲットに入れたイベント等の現状の把握 アンケートより、高齢者との世代間交流のイベントや若年層をターゲットに入れた活動は少ないように見受けられました。しかし、防災関係において一部では中学校と自主防災会の共同防災訓練などを行っています。</p>			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明		
		7月～ 3月	3	<p>コロナも落ち着きを取り戻した様子で、徐々に座談会や講演会、各種集まりなどが地域包括支援センターを中心に再開されているようです。ただ、依然として地域の課題はあり、人と人とのつながりが希薄になることから発生する問題（孤独死など）があることが理解できました。</p>		
	課題					
	<p>座談会や講演会など人が集まる機会が増えた中、若年層も含め地域の住民が積極的に参加できるようなイベントや活動を提供して地域の人と人とのつながりを強くしていくことが必要であると思われます。</p>					
	課題解決のための改善内容・取り組み方針					
	<p>社会福祉協議会や地域包括支援センターなどが地域に向けて積極的に活動をアピールし、地域の細かな問題にも対応していくことで地域全体の福祉の向上を図れると思います。そのために市内でどのような福祉活動を行っているのか調査を続けて報告していきます。</p>					
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)					
	<p>引き続き各機関と連携して情報収集を進めたいと考えます。</p>					
	今後 の方向 性	期間		今後の方向性の説明		
		5年4月 ～ 5年11月		<p>市内地域包括支援センターの訪問、調査。</p>		
5年12 月 ～ 6年3月		<p>訪問、調査で得た情報をまとめる。</p>				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見						
<ul style="list-style-type: none"> ・「地域包括支援センター」の認知が低いので、いかにPRしていくかが必要だと思います。 ・取手市での特色ある包括支援センターを運営、組織を充実したものになることを期待します。 						

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和4年度		
担当者	職名	係長	氏名 濱田 正之
該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう、知らせよう—情報の共有促進
	取り組み	②	福祉教育アプローチの構築
現状と課題	<p>昨年度、市内小中学校を回り「やさしい心の種をまく」を持参したことで、各校のボランティア担当者にあらかじめ福祉教育活動について知ってもらう機会となりました。合わせて実施したアンケート調査の結果、現状での問題点や新たなニーズも浮かび上がってきました。</p> <p>内容の更なる充実を図るとともに高校生や大学生向けのメニューも検討して行く必要性を感じました。</p>		
事業・業務の 具体的内容 等 (何を・いつま でに・どのレ ベルまで達成 させたいのか など)	<p>(1) 学びの場である学校で、福祉についてもより深い知識の習得に向けて福祉教育研修会を開催します。(継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容：受け入れ先、協力いただける機関についての把握と新規開拓 ・実施期間：令和5年3月まで ・達成目標：福祉団体、ボランティア団体等、協力機関を見つけたい。 		
令和4年度 の実施状況	<p>昨年の調査では、市内の小中高校のオンラインでの実施など、コロナ禍で実施形態を様々な形に変化させたものであれば障害のある方との触れ合う機会、様々な福祉体験についてのニーズがある事はわかりました。</p> <p>本年度は協力機関を探すことを念頭に、市内及び近隣市町村の事業所に学生を受け入れていただけるよう様々な機会に「やさしい心の種をまく」を持参してご協力をいただけるようお願いしてきました。まだ外部団体やボランティアの受け入れを自粛しているところも多く、電話でのお願いにとどまっているところも多いのが現状です。</p>		

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		9月～ 3月	3	外部団体の方に福祉教育支援プログラムについて知っていただく機会とはなりましたが、残念ながらコロナ禍での制約が多く、協力団体として活動をサポートして下さいというようなお願いまでは出来ませんでした。	
	課題				
	協力団体となり得る皆さんにコロナ蔓延が落ち着き次第、各事業所に受け入れを検討して頂けるように調整する必要があります。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	昨年と同様ですが、小中学校よりも高等学校について新たなメニュー、取り組みについて幅を広げる必要性を感じています。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	引き続き情報の収集とともに、協力団体の獲得を目指します。				
	今後 の方 向性	期間	今後の方向性の説明		
		5年 4月 ～ 5年 9月	支援プログラムの充実を目指した協力団体に対する調査および依頼します。		
	5年 10月 ～ 6年 3月	福祉教育研究会実施に伴う情報交換を行います。			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
・手話サークルの団体にかかわっていますが、参加者はほとんどが高齢者のなか、昨年小学3年生、4年生とお母さんが訪ねてきました。サークルでの手話も良いが、手話養成講座等でしっかりとした内容で教えることが必要です。					

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和4年度		
担当者	職名	主事	氏名
			井坂はるか
該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう—担い手の育成
	取り組み	①	新たなボランティア活動の推進、地域への参画
現状と課題	<p>取手市内の課題について把握、地域活動の把握をすることで地域資源の活用や自治会町内会との協力関係により、小地域でのサロンやたまり場、茶話会といった地域の拠点づくり、それらの成り立ちやボランティア（担い手）の確保など、ノウハウをマニュアル化できれば参加しやすいものとなります。先進地の活動を参考にしてより良い仕組みづくりについて調査研究が必要です。</p>		
事業・業務の 具体的内容 等 (何をいつま でにどのレ ベルまで達成 させたいのか など)	<p>(1) 小地域での助け合い活動が行われるような仕組みづくりを考えます。 ・実施内容：市内での小地域の助け合い活動の取り組みや他市町村での取り組みについて調査研究をし、取手市の地域での地域交流に役立つ情報を収集します。 ・実施期間：令和5年3月まで ・達成目標：取手市内での活動や地域課題についてまとめて一覧にします。</p> <p>(2) 地域の現状や課題について話し合いの機会を持ちます。 ・実施内容：取手市の地域課題について話し合う協議体(地域支えあいづくり推進協議会)での取り組みや座談会に参加し、現状の把握と課題解決について調査します。 ・実施期間：令和5年3月まで ・達成目標：課題解決についての成功事例等を他地域に発信し、課題解決に向けた取り組みについて市内で広がるようにします。</p>		
令和4年度 の実施状況	<p>(1) 戸頭町会お助け隊、戸頭第一住宅日常生活応援隊のボランティアについて調査を行いました。</p> <p>(2) 地域の自主防災会井野団地・青柳地区、つつじが丘、桜が丘、光風台の自主防災会の視察を行い地域の活動について取材しました。</p>		

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		7月～3月	4	(1)地域の活動について自治会運営型、ボランティア活動で行う方法が考えられますが、担い手の高齢化により小地域での助け合いが望ましいため、小地域で話し合いの機会が重要になります。 (2)様々な団体自治会組織の活動について知ることができ、多くの方が関わっていることで成り立っている実情や課題についても知ることができました。ボランティアの高齢化、自治会町内会の担い手についても高齢化の問題があり、自治会活動においては班長などの役員ができないために自治会から脱会する状況があります。	
	課題				
	(1)新型コロナウイルス感染拡大防止により地域の話し合う機会が減少しているため地域課題の解決については難しい状況にあります。 (2)後継者問題が深刻な問題があります。若い方の参画についてどのようなものができるかを模索し、地域づくり、ボランティア活動推進につなげていく必要があります。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	(1)小地域活動助け合いについて、人材の確保やサービスメニューなど他市町村での取り組みを参考にして仕組みづくりを学びます。 (2)学生等若い方の社会参加についての先進事例の調査をして、若い方の得意分野や実際行っている学習支援についての情報を地域に発信し、他の地域でも広げていきます。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	(1)(2)見守りなどお助け隊のような地域活動団体、ボランティア団体との情報交換などにより社会資源の発掘に努めます。				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		5年4月～6年3月	(1)他市町村での活動について人材の確保の方法、団体の構成員やサービスメニューなどについて調査します。 (2)学生等若い方の社会参加についての先進事例の調査をします。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
<ul style="list-style-type: none"> ・取手市ではオンラインで使用できる施設が少ないです。Wi-Fi環境が整っていません。将来の課題ということで検討していただけるとありがたいです。 ・Wi-Fiは水や電気と同じインフラなので、しっかり予算措置していただきたいです。 ・ボランティア活動に参加した割合が1978年から2021年で10%以上下がっています。過去一年間にボランティア活動に参加した割合が、コロナ禍が終わって戻ってくるのかどうか注目しています。 					

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和4年度			
担当者	職名	課長補佐	氏名	小林一郎
該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう—担い手の育成	
	取り組み	②	次世代（若者）担い手の育成、拡大	
現状と課題	<p>超高齢化社会の中で、地域の自治会町内会やボランティア活動が高齢化が理由で縮小や低迷する傾向にあります。学生や若い世代が小地域活動やボランティア活動に参加できるような仕組みづくりが必要とされています。これからの地域活動やボランティア活動の活性化に向けた若い世代に参加いただくための取り組みについて研究が必要です。学生のボランティア活動の参画しやすい環境づくり情報提供をしていきます。</p>			
事業・業務の 具体的内容 等 (何をいつま でにどのレ ベルまで達成 させたいのか など)	<p>(1) 若い世代の地域参加を促します。 ・実施内容：学生向けに地域活動やボランティア活動の現状を知ってもらい、自治会活動やボランティア活動への参加につなげます。 ・実施期間：令和5年3月まで ・達成目標：学校での地域活動やボランティア活動について知ってもらう機会をつくります。</p> <p>(2) 子どもの頃から自分の地域を学ぶ機会をつくります。 ・実施内容：取手小学校で行っているふれあいいきいきサロンへのクリスマスカード配布など学生と高齢者との交流が行われています。この取り組みを他の学校でも取り組めるような仕組みづくりを目指します。 ・実施期間：令和5年3月まで ・達成目標：高齢者とのクリスマスカード配布等交流事業を新たに1校開催場所を増やします。</p>			
令和4年度 の実施状況	<p>(1) 若い世代の地域参加を促します。 取手一高の一年生を対象とした授業「産業社会と人間」において、ボランティア活動や自治会活動の高齢化による活動が困難になっている状況を伝え考えてもらう機会を持ちました。ふれあいサロンUNSAMの高校生が地域の方と協力して学習支援の団体を立ち上げ、高校生1名と地域の大人1名で共同代表となりました。</p> <p>(2) 子どもの頃から自分の地域を学ぶ機会をつくります。 取手小学校でのクリスマスカードについて今年もふれあいサロンや施設の高齢者へ届けました。また、新たに取手東小学校でもこの活動を行ってもらえるよう趣旨を説明し、来年度に向けて高齢者施設等へメッセージカードを送れるように、見本として今年度作成したものを画像とワード形式にしてプリントアウトできるようCDに収録して渡しました。</p>			

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果状況	7月～3月	5	
				(1) 地域の実情やボランティア活動に若い方の参画が必要なこと今後地域の活動に対する若い方の参画についての可能性を示唆し、考えるきっかけを与える機会を得ました。また、実際に高校生が学習支援の団体の代表になり地域の課題解決に取り組むことにもつながり、他の地域でも同様な活動にも発展する可能性もあります。 (2) コロナ禍で地域交流が難しい中、メッセージカードではありますが学生と地域の高齢者との心の交流が可能になり、福祉のこころを養う機会につながる活動としてさらに多くの学校に協力してもらえようなきっかけづくりになりました。
				課題
				(1) 高校生の参画は活動を理解してもらい多くの高校生に知ってもらおう仕組みづくりが必要になります。 (2) 継続的に行うには先生や学校の行事として定着することが必要になります。
				課題解決のための改善内容・取り組み方針
				(1) (2) 学校や地域への広報活動、支援者の育成プログラム、マニュアル等が必要となります。
				協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)
				(1) (2) 学校や自治会町内会、支援団体の立ち上げ、UNSAMとの連携、情報共有を常に行う場づくりが必要です。
			期間	今後の方向性の説明
今後の方向性		5年4月～6年3月	(1) (2) 継続的に学校と連携して多くの地域の協力、ボランティア育成に広げていきます。	
		年月～年月		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
<ul style="list-style-type: none"> ・市内には7校（取手一・取手二・藤代・藤代紫水・取手松陽・江戸取・聖徳）の高校があるが、積極的にボランティア活動しているのは取手一高だけでしょうか？ ・私はこども食堂に関わっているが、高校生のボランティアが14名参加してくれて、子供と学んだり遊んだりしてくれました。本当に優しく対応してくれています。他のところでも「UNSAM」の方たちが活動できればいいと思います。また、井野公民館でクリスマス会を催しています。 ・取手小学校からクリスマスカードが贈られてきます。それに対する高齢者の返事が「ありがとう」だけが多かったのですが、近頃は「楽しかったクリスマス」と文章になってきました。認知症予防にもいいと思います。 				

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和4年度			
担当者	職名	係長	氏名	橋本 睦
該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実	
	取り組み	①	安全に暮らせるまちづくりの推進（バリアフリー）	
現状と課題	<p>普段生活している際に子どもや高齢者、障害のある方が日常生活において危険や不便を感じる場所を把握し、緊急時や避難時の危険個所として周知することは重要であります。しかしながら地域情報についてはあまり把握できておらず、まずは各地域の情報を丁寧に収集していくことが重要と考えました。実際に地域住民の安全の為に活動を行っている団体や災害発生時の対策本部や救援体制の整備強化を図っている地域もあり、その情報収集や整理を行いたいと思います。</p>			
事業・業務の 具体的内容 等 (何をいつま でにどのレ ベルまで達成 させたいのか など)	<p>(1) 危険度エリアマップづくりのための検討会を実施します。 ・実施内容：今年度ハザードマップの見直し現状の地域における危険個所等についての情報・マップ作成等状況の調査 ・実施期間：令和5年3月までに ・達成目標：取手市役所各担当課への聞き取りの実施及び情報集約</p> <p>(2) 地域見守り隊の活動に努めます。 ・実施内容：地域における見守り、防犯等の取り組み状況についての調査やスクールガードの現状調査（行政、関係団体、市民レベルにおいて） ・実施期間：令和5年3月までに ・達成目標：取手市教育委員会、関係団体、各町会等への聞き取りの実施及び情報集約</p> <p>(3) 緊急支援できるボランティアを育成し、組織化をめざします。 ・実施内容：自主防災会の活動状況と避難訓練の状況調査 ・実施期間：令和5年3月までに ・達成目標：取手市役所担当課、市社協担当、自主防災会等への聞き取りの実施及び一覧の作成、安心安全課での調査</p>			
令和4年度 の実施状況	<p>(1) 危険度エリアマップづくりのための検討会を実施します。 取手市によりハザードマップの見直しが今年度は行われ全戸に配布されました。また、とりで障害者協働支援ネットワークによるバリアフリー探検隊が今回は本郷地区で行われました。また、危険度エリアマップとして新聞社により2019年20年に全国で起きた人身事故のデータを公開している等情報収集を行いました。</p> <p>(2) 地域見守り隊の活動に努めます。 地域見守りや防犯等の取り組み状況でスクールガードを調査したところ、戸頭地区では社協ボランティアでは取手市戸頭スクールパトロール隊が小学校の登下校の見守りパトロールに活動しており毎週金曜日には学校とも情報共有をしながら活動をしておりま。取手市での取り組みとしては、防犯ステーションを井野地区と藤代駅前に設置し、常時3名が滞在し地元ボランティアと連携し、小学校・中学校のパトロール実施をしていることがわかりました。また防犯の相談等も受けていることがわかりました。</p> <p>(3) 緊急支援できるボランティアを育成し、組織化をめざします。 聞き取り調査の結果、自主防災会は市内に91ヶ所あり、その地域において避難訓練や備蓄品の購入などに努めています。また社協でも防災ボランティア養成研修会を開催していましたが、今年度はコロナの影響で開催の見送りとなりました。</p>			

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		7月～3月	4	<p>(1) 全戸への災害ハザードマップ配布に加え併せてホームページでも公開されています。他交通事故に関して2020年に歩いて死傷した被害者の数が7歳事が最多であることから民間により作成された子どもからみた全国危険マップがあることが調査によりわかりました。</p> <p>(2) 戸頭地区では戸頭スクールパトロール隊が学校と連携をして子ども達の安全に勤めています。井野地区、吉田地区にボランティアや警察官OBによりスクールガードの組織があり活動していることがわかりました。</p> <p>(3) 市内で91ヶ所もの自主防災会があり、それぞれ地域にあった防災準備や訓練をしていることが調査の結果わかりました。</p>	
	課題				
	地域それぞれの特性があり、すべての項目において、地域ごとに差があることが現状を把握していくとわかってきました。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	もう少し、地域の活動を詳細に調べていくことが必要であると感じました。また各関係機関とも連携が必要であると思います。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	<p>(1) については、取手市安心安全課や取手社協ボランティア支援センターの協働・連携</p> <p>(2) については、取手市安心安全課や取手社協ボランティア支援センター・各地域スクールガードとの協働・連携</p> <p>(3) については、取手社協ボランティア支援センターの協働・連携</p>				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		5年4月～6年3月	(1) 危険度エリアマップづくりのための検討会を実施 取手市安心安全課やボランティアとの聞き取り・情報収集		
5年4月～6年3月		(2) 地域見守り隊の活動に努めます 取手市安心安全課や警察・各地域ボランティア団体との聞き取り・情報収集			
5年4月～6年3月		(3) 緊急支援できるボランティアを育成し、組織化をめざします。 取手市安心安全課や市内自主防災会との聞き取り・情報収集。ボランティア養成研修からの組織化			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
令和5年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和4年度			
担当者	職名	主事	氏名	安田 理恵
該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実	
	取り組み	②	一人で抱え込まないための相談支援活動の充実	
現状と課題	<p>地域の課題として、低所得、独居化、家族関係の希薄化が進む中、どのようにしたらよいかとの不安等があり、自分の困っていることや福祉全般の相談について気軽に相談でき、援助してもらえるサービスについて分かりやすく教えてもらえるような総合相談体制が欲しいとの希望があります。</p> <p>コロナ禍での不安も加わり相談内容が多様化しており、気軽な話し合いや地域の情報も入りづらい状況にあるため、地域の関わりの中で困りごとなどを吸い上げ、情報発信や支援につなげられるよう各関係機関との連携強化が求められます。</p>			
事業・業務の 具体的内容 等 (何をいつま でに・どのレ ベルまで達成 させたいのか など)	<p>(1) ニーズを早く解決する為の仕組みや体制をつくります。 ・実施内容：困りごと等への相談の仕組み、連携等の現状の調査 (行政、市社協レベルにおいて)</p> <p>・実施期間：令和5年3月までに ・達成目標：相談内容別相談機関の一覧の作成</p> <p>(2) みんなで守る意識を高めます。 ・実施内容：地域での助け合いへの取り組み、啓蒙活動等の現状の調査 (行政、市社協レベルにおいて)</p> <p>・実施期間：令和5年3月までに ・達成目標：地域のサロンなどでの相談から相談機関に発信する仕組みづくり</p> <p>(3) 見守り助け合いネットワークづくりの充実を図ります。 ・実施内容：地域において訪問活動等の取り組みの現状の調査 (行政、市社協レベルにおいて)</p> <p>・実施期間：令和5年3月までに ・達成目標：成功事例等活動について集約する</p>			
令和4年度 の実施状況	<p>(1) ニーズを早く解決する為の仕組みや体制をつくります。 実施内容：困りごと等への相談の仕組み、連携等の現状の調査</p> <p>(2) みんなで守る意識を高めます。 実施内容：地域での助け合いへの取り組み、啓蒙活動等の現状の調査</p> <p>(3) 見守り助け合いネットワークづくりの充実を図ります。 実施内容：地域において訪問活動等の取り組みの現状の調査</p>			

進行管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果状況	7月～3月	<p>(1) 調査により保健センターや市民協働課の相談窓口・包括支援センター・社協や各行政窓口と連携や民間団体など幅広く連携が行われていることがわかりました。</p> <p>(2) 調査によって市内37ヶ所にあるふれあいサロンや市内4ヶ所にある地域包括支援センターのオレンジカフェがあります。オレンジカフェでは相談にも応じており、相談から行政等の関係機関へ繋がる事例があることがわかりました。</p> <p>(3) 実際の地域においての相談から成功事例に基づいて調査をおこないました。一つの案件に社協を含め多数の関係機関が関りを持ち、問題の解決に向けての取組みがありました。</p>	
	課題			
	相談内容対応する仕組みづくりは出来ているが、行政への相談には抵抗がある等の意見があります。今後気軽に相談ができる仕組みづくりが必要であると感じます。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	<ul style="list-style-type: none"> ・行政に限らず地域において活動しているNPO法人等民間団体との連携強化・情報発信の強化します。 ・地域において、気軽に話ができる場所や機会を作り、相談窓口の情報が分かるようにします。 			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	<p>(1) については、取手市福祉部と取手社協生活支援係の協働・連携</p> <p>(2) については、取手市市民協働課、福祉部及び各地域包括支援センターと取手社協地域支援係の協働・連携</p> <p>(3) については、取手福祉部及び地域包括支援センターと取手社協地域支援係の協働・連携</p>			
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明	
		5年4月～6年3月	<p>(1) ニーズを早く解決する為の仕組みや体制をつくります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター、相談支援事業所、自立支援協議会、ボランティア団体、NPO法人等民間団体への聞き取り、集約 	
5年4月～6年3月		<p>(2) みんなで守る意識を高めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター、自治会・町内会等への聞き取り、集約 		
5年4月～6年3月		<p>(3) 見守り助け合いネットワークづくりの充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター、自治会・町内会等への聞き取り、集約 		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
<ul style="list-style-type: none"> ・移動手段については、5年で確実に悪くなっているのが交通の不便です。移動支援が必要です。行政なのか、市民なのか、企業なのか、ネットワークなのか分かりませんが、何かしらの対応が必要かと思いました。 ・「げんきサロン」は常設の所なので、何か相談とかあれば利用できるのではないかなと思っています。相談でなくても日常の会話の中で解決できたりする場所ではないかと思いました。「げんきサロン」も相談場所の中に入れていただきたいです。 				

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和4年度			
担当者	職名	主事	氏名	安田 理恵
該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実	
	取り組み	③	ふれあいの機会を増やします	
現状と課題	<p>コロナ禍で感染拡大を予防することが最優先となり、地域のイベントの開催が困難であり、交流の機会は減少している状況でした。</p> <p>今後は、ふれあいの機会を徐々に増やすことができるようにニューノーマルへの対応を進める必要があります。今年度開催されてきているイベントについて調査し、特に若年層が参加しやすい仕組みや企画の工夫など、今後のイベントの在り方について考えます。</p>			
事業・業務の 具体的内容 等 (何をいつま でにどのレ ベルまで達成 させたいのか など)	<p>(1) 誰でも気軽に参加できるイベントを開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容：市内で実施されているイベント等の現状の調査 (行政、市社協、関係団体、市民レベルにおいて) ・実施期間：令和5年3月までに ・達成目標：コロナ禍でのイベントの状況集約 <p>(2) 福祉施設との交流の機会を増やします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容：市内福祉施設での地域住民・学生等との交流機会の現状の調査 (行政、市社協、関係団体レベルにおいて) ・実施期間：令和5年3月までに ・達成目標：コロナ禍での受け入れについて施設の状況の集約 			
令和4年度 の実施状況	<p>(1) 誰でも気軽に参加できるイベントを開催します。 実施内容：行政、市社協、関係団体への聞き取りを実施</p> <p>(2) 福祉施設との交流の機会を増やします。 実施内容：市内福祉施設、市社協、こども食堂への聞き取りを実施</p>			

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明
	7月～ 3月	4	<p>(1) 昨年度に比べ、コロナ禍でも徐々にイベントを実施していることが分かりました。令和4年度の実施イベント調査について一覧にまとめ、情報共有することができました。</p> <p>(2) コロナ禍での受け入れ状況について把握することができました。施設内での感染予防の観点から定期的に受け入れを行っている施設は2カ所でした。その他、施設外での草取り作業のボランティアの受け入れを行なっている施設があることが分かりました。また、こども食堂の取材の中で市内7カ所の高校と連携しボランティア活動を行っている他、イベントの準備や意見交換など自主的に活動している高校生がいることが分かりました。</p>
	課題		
	<ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントに参加している方の詳細状況について把握できていない状態です。 ・イベントやボランティア活動についての啓発が不十分な状態です。 		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的にイベントを実施するにあたり、現在のイベントのターゲット等、詳細を把握します。 ・イベントやボランティア活動について積極的な情報発信します。 		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	<ul style="list-style-type: none"> (1) 取手市民協働課、福祉部各課と取手社協の協働・連携 (2) 取手市民協働課、取手社協の協働・連携 		
	期間		今後の方向性の説明
	5年 4月 ～ 6年 3月	<p>(1) 誰でも気軽に参加できるイベントを開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取手市市民協働課、ボランティア団体への聞き取りの継続 	
5年 4月 ～ 6年 3月	<p>(2) 福祉施設との交流の機会を増やします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉部各課、地域包括支援センター、ボランティア団体への聞き取りの継続 		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
<ul style="list-style-type: none"> ・子育てではママ友作りが一番大事だと思います。公園の遊具は老朽化したら撤去されてしまいます。そうすると草原になってしまいます。公園に遊具を付けてもらえれば、ママ友が増えると思います。 ・親が除草作業の活動に参加しており、根が深くて非常に大変だと聞いています。機械を借りて少ない労力でやることも必要です。前例にとらわれず効果を生みそうなことをやっていくことが大事なんだと思いました。 			

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和4年度			
担当者	職名	課長補佐	氏名	小林一郎
該当項目	行動目標	4	みんなで集まり、協力しようー連携強化と拠点づくり	
	取り組み	①	地域拠点づくりの促進	
現状と課題	<p>高齢化による小地域活動の低迷が懸念されています。地域の状況に応じた対応をするため、地域のボランティア活動など社会資源に関することやふれあいサロン等の助成金の情報などを提供し、地域の活動に関心をもってもらえるような仕組みづくりが必要となってきました。</p> <p>また、自治会や町内会の加入が減少しています。地域の基盤ともいえる自治会町内会の活動が縮小傾向にあることや高齢化により役員などの役割が困難になってきている現状があります。</p>			
事業・業務の具体的内容等 (何をいつまでにどのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>(1) 地域のニーズに応じた社協活動を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容：小地域で必要な活動に対して必要な情報を提供し、地域と団体をつなげて新たなサービスにつなげます。 ・実施期間：令和5年3月まで ・達成目標：地域課題解決や新たな仕組みづくりに向けて支援し、新しい地域活動を立ち上げます。 <p>(2) 町内会（自治会）の活動を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容：自治会町内会活動、自主防災活動などに積極的に参加し、地域の状況を把握します。 ・実施期間：令和5年3月まで ・達成目標：自治会町内会活動、自主防災活動の状況等どのようなものが行われているか情報集約します。 			
令和4年度の実施状況	<p>(1) 高校生の地域参画についての相談があり地域の団体に声掛けをして有志を募り団体を立ち上げることができました。</p> <p>(2) 地域の自主防災会(井野団地・青柳地区、つつじが丘、桜が丘、光風台)の視察を行い地域の活動について取材しました。</p>			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		7月～ 3月	5	(1) 学生ボランティアの意向と地域をつなぎ 地域参画について地域資源の発掘と継続性の確立を目指して話し合いを行い、方向性を見出し、それぞれの得意分野で役割分担を決め活動を開始することができました。 (2) 地域ごとに防災訓練の周知の方法訓練の方法など工夫が見られ、地域の協力体制の状況がわかりました。	
	課題				
	(1) 地域のボランティアと学生が継続していくための協力体制、学生については受験やアルバイトなど参加できない状況に対してシフトを組むのに多くの学生が必要になります。 (2) 災害については関心が高いところですが地域での参加、若い世代への継承ができるよう仕組みづくりが必要です。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	(1) (2) 地域のボランティア団の情報、自治会町内会の情報などのニーズ把握、ボランティアの意向を伝え情報を共有してより良い活動につなげます。募集については広報を充実し、学生に届きやすい情報媒体を利用して工夫をします。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	(1) 学生向けの広報の充実、ふれあいサロンUNSAMとの連携で学生を必要とする地域のボランティア活動についての勉強会等により新たな活動を模索します。 (2) 地域の避難訓練等自治会町内会、自主防災会の活動に積極的に参加して情報を共有します。				
	今後 の 方 向 性	期間	今後の方向性の説明		
		5年 4月 ～ 6年 3月	(1) (2) 地域防災や重要な地域活動を支援するための活動について若いボランティアと地域をつなぐ先進的な活動をしているところを調査し、団体の活動につなげます。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
令和5年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和4年度			
担当者	職名	課長補佐	氏名	小林一郎
該当項目	行動目標	4	みんなで集まり、協力しようー連携強化と拠点づくり	
	取り組み	②	関係機関との連携体制作り	
現状と課題	<p>協議体での取り組みは地域の課題を浮き彫りにするための取り組みとして行われています。特に地域ごとに開催される座談会においては地域の状況を把握するとともに、地域で活躍する住民や問題意識を持った人が集まるため建設的な意見交換がなされています。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動ができていない状況にあります。地域の現状把握とコミュニティづくりについて研究し、若い世代の活用地域活性化のための仕組みづくりが必要です。</p>			
事業・業務の 具体的内容 等 (何をいつま で・どのレ ベルまで達成 させたいのか など)	<p>(1) 住民ニーズの把握に努めます。 ・実施内容：各地域包括支援センターで行っている協議体での活動の状況について把握し、情報を発信していきます。 ・実施期間：令和5年3月まで ・達成目標：コロナ禍で地域活動が難しい状態で行われている座談会等で出た地域課題についてをまとめ、地参地笑で報告します。</p> <p>(2) 新たなコミュニティづくりと既存の福祉活動との共存・連携を図ります。 ・実施内容：地域のサロン活動において若いボランティアの活躍の場を提供します。 ・実施期間：令和5年3月まで ・達成目標：小地域活動での社会資源と若いボランティアの活動をつなぎ、新たなふれあいサロンを立ち上げます。</p>			
令和4年度 の実施状況	<p>(1) 住民ニーズの把握に努めます。 4月に行われた市政協力員の総会において5圏域の協議体の活動についての情報を網羅したものを地参地笑CDに収録し配布しました。地域包括で行っている協議体に関する各圏域での座談会や会議等に参加して地域のニーズや取り組みについて情報共有しました。</p> <p>(2) 新たなコミュニティづくりと既存の福祉活動との共存・連携を図ります。 学習支援のボランティア団体としてふれあいサロンが立ち上がりました。また、地域のつながりを強化しようと小堀地区、第二八重洲・青柳地区の方々の居場所づくりとしてふれあいサロンがそれぞれ立ち上がりました。</p>			

進行 管理	成果 状況	aegk		成果状況に対する説明
		7月～ 3月	4	(1) コロナ禍で地域のつながりが希薄になっていることから認知機能の低下や孤立などの問題が出てきているため市民の交流のニーズが増えてきています。地域の拠点づくりなどの話が社協にもあり、ふれあいサロンの立ち上げにつなげることが期待されます。 (2) 学生の社会参加により地域でのボランティアの協力、ボランティア母体と連携することで学生の役割と地域のボランティアの役割、得意分野での協働による活動の可能性が見えました。学習支援に限らず多くの地域活動への学生の参画が可能だといえます。
	課題			
	(1) (2) ボランティアの高齢化で既存のボランティアの活動の低迷と地域の自治会町内会の活動も高齢化しているため、新しい活動についての受け入れが難しい状況にあります。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	(1) 高齢者でも無理のない活動で参加しやすい茶話会やふれあいサロンなど交流活動を行う活動を推進し、小地域での拠点づくりを目指します。 (2) 地域のメリットになる活動について学生が参加できる内容のプログラムを作りマニュアル化して地域の方々に情報を発信し、学生の得意分野の活動を取り入れ、協力者を募ります。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	(1) ボランティア団体NPO団体など市民活動の把握、地域の核となる活動についての情報共有をしていきます。 (2) 高校生のふれあいサロンUNSAMとの連携で地域での学生向け活動を模索し、地域参加プログラム作成します。			
	今後 の方 向性	期間	今後の方向性の説明	
		5年 7月 ～ 6年 3月	(1) 地域情報の収集については継続的に行いニーズの把握、地域資源の発掘に努めて、地域の拠点づくりを目指します。 (2) 学生向けの地域参画に関する他市町村での先進事例を調査し、地域参加プログラムを作成します。	
	年 月 ～ 年 月			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
・ 「地参地笑」のCDは、市政協力員は全員もらっています。よりPRできればと思います。				

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和4年度			
担当者	職名	主幹	氏名	本橋宏美
該当項目	行動目標	5	子どもたちを地域で育もう—子育て支援	
	取り組み	①	子育て支援の促進	
現状と課題	現代の子どもたちを取り巻く環境は、核家族化や共稼ぎ世帯の増加などを理由に変化しております。そして児童虐待を始め、孤食や貧困問題など様々な子育て、子どもたちに対する課題が大きく取り上げられております。その中で、地域で子どもたちを育むという意識も希薄であるように感じられ、多くの人が参加できる子育て支援に関する行事や、親子でふれあう機会が減少しており、子どもの置かれている状況を地域が把握できなくなっています。			
事業・業務の 具体的内容 等 (何をいつま でにどのレ ベルまで達成 させたいのか など)	<p>(1) 親子交流の場を整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容：市内における「親子交流の場」の視察を行います（子育て支援センター） ・実施期間：令和5年3月までに実施 ・達成目標：市内における「親子交流の場」の視察を通じて状況把握を行います <p>(2) 家族が地域とふれあう機会づくりを整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容：市内における「家族と地域がふれあう機会づくり」の視察を行います（こども食堂） ・実施期間：令和5年3月までに実施 ・達成目標：市内における「家族と地域がふれあう機会づくり」の視察を通じ状況把握を行います <p>(3) 地域住民のネットワークを整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容：市内における「地域住民ネットワークの整備」において民生委員との関わりにおける視察を行います（子育て支援センター） ・実施期間：令和5年3月までに実施 ・達成目標：市内における「地域住民ネットワークの整備」の視察を通じて状況把握を行います 			
令和4年度 の実施状況	<p>(1) 親子交流の場を整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容：市内における「親子交流の場」の視察を行います ・実施状況：子育て支援センター会議に参加し対象者のご利用状況や季節の創作活動や情報発信について伺うことが出来ました。 <p>(2) 家族が地域とふれあう機会づくりを整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容：市内における「家族と地域がふれあう機会づくり」の視察を行います ・実施状況：こども食堂ゆう、こども食堂こころの視察を行いました。実際にご利用されているお子様とゲームで遊んだり、学習支援や食事づくりなどボランティアさんの活動を拝見しながら、こども食堂の代表者の方々にお話を伺い活動や役割を学びました。 <p>(3) 地域住民のネットワークを整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施内容：市内における「地域住民ネットワークの整備」において民生委員との関わりにおける視察を行います ・実施状況：子育て支援センター会議において、民生委員さんとの関わりを伺った所コロナ禍のため、外部のボランティアさんの受け入れは現在は休止されていました。活動が再開されたら視察に伺いたいと思います。 			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		7月～ 3月	4	<p>(1) 子育て世代のお母様方が子育て支援センターを通じて悩み相談や子育てに関する情報、ママ友づくりなど楽しく安心してご利用できる施設でありました。コロナ禍であるからこそ核家族世代に大切な居場所・相談できる施設でありました。</p> <p>(2) こども食堂は平日夕方や土曜日にこどもが安心できる楽しい居場所を提供されておりました（施設により曜日は異なります）。その中で学習支援や食事、楽しいイベントが行われており、何より利用されているお子さんが笑顔であること、また活躍されるボランティアさんも学生からシニア世代と幅広く得意な分野を活かしながら活動されていました。地域でこどもを育てていく力を感しました。</p>	
	課題				
	「こども食堂」や「子育て支援センター」を幅広い世代の市民の方々に知っていただく必要があります。こども食堂は、学習支援（対象年齢あり）や食堂も行っています。食堂は全年齢の方々が利用出来るので（予約制）継続した幅広い広報活動が必要です。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	社会福祉協議会として施設の紹介やボランティア募集など情報誌に掲載しながら継続した情報発信に努めていきたいです。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	子育てに関わることやボランティアに関わる他の行動目標と連携しながら進めて参ります。				
	今後 の 方 向 性	期間	今後の方向性の説明		
		5年 7月 ～ 6年 3月	地域で子育て支援を育てていくために役割を担っている子育て支援センターやこども食堂における活動について情報収集・情報発信を行って参ります。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
令和5年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和4年度			
担当者	職名	係長	氏名	宮崎江美子
該当項目	行動目標	5	子どもたちを地域で育もう—子育て支援	
	取り組み	②	安心できる居場所をつくります	
現状と課題	<p>子どもを取り巻く環境の中で、親子でのふれあいの場が少なくなっています。子どもたちの安心できる居場所づくりとして、自治会、ボランティア団体等の季節ごとのイベント活動やこども食堂等の協力を得ながら、地域の中で行われている活動が継続して実施できるよう、子育て支援につなげていく必要があります。</p>			
事業・業務の 具体的内容 等 (何をいつま でにどのレ ベルまで達成 させたいのか など)	<p>(1) 安心できる遊び場、居場所づくりをつくります。 ・実施内容：市内の子育て世代のあそび場（居場所）でのイベントを視察 ・実施期間：令和5年3月まで ・達成目標：子育て支援センターでのイベントを視察し状況の把握</p> <p>(2) 遊び方を学べる機会をつくります。 ・実施内容：げんきサロン等においてシニア世代と地域の子ども達との交流会を視察 ・実施期間：令和5年3月まで ・達成目標：高齢者の活動団体等のイベント情報の確認と状況の把握</p> <p>(3) 遊び場見守り体制を整備します。 ・実施内容：地域の見守り体制のアンケート結果をもとに見守り状況の集約 ・実施期間：令和5年3月まで ・達成目標：自治会やボランティア団体等のあそび場（市内公園）の見守り体制を把握</p>			
令和4年度 の実施状況	<p>(1) 市内に4ヶ所ある子育て支援センターの代表者会議に参加させて頂きました。会議の中では、子育て世代の保護者向けに、季節ごとのイベントや子育てのヒントとなるミニ講座等を計画するなど、親子で安心して過ごせる居場所づくりとして話し合っていました。利用方法は予約制であり限られた人数での関りですが、より多くの方が子育ての相談や親子で小さな集団活動を学び友だちと関わる練習の場として子育て支援センターの提供をされていました。広報活動として公式LINEを取り入れ情報配信を行っていました。</p> <p>(2) げんきサロンでの子ども達との交流は現在、見合わせていました。地域の高齢者との関わりの一環として、取手小学校5年生がメッセージカードを作成し、サロンや高齢者施設に配布する活動の実施を知ることが出来ました。また、子ども食堂「ゆう」 「こころ」の視察を行い、とてもアットホームな雰囲気の中で異年齢の関わりを知り得ることが出来ました。学習支援や子ども達と一緒にやってみたい遊びを考えるなど、楽しみながら経験が広がるよう子ども達の「やる気」を引き出す居場所づくりを心掛けていると感じました。</p> <p>(3) アンケートの集計により、自治会によってスクールガード(見守り隊) や近隣の公園を登下校中に気に掛けて下さっていることが分かりました。取手市水とみどりの課では業者に依頼し、市内の公園遊具の点検を今年度実施中。遊具の入れ替えを行い子ども達が安心して過ごせるように配慮されていました。</p>			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		7月～ 3月	4	コロナ禍で外部と接触する機会が減少していましたが、受け入れ人数やコロナ対策を万全にした上で、子育て支援センターや子ども食堂においては地域の子どもの居場所づくりの実施や年齢別の繋がりが持てるような支援の充実を試行錯誤しながら話し合いが行われていました。	
	課題				
	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代に向けて子育て支援センターの活動についてより多くの方への広報活動が必要です。 ・学生ボランティアや見守り隊ボランティアの担い手、育成が必要です。 				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	取手市社会福祉協議会として、ホームページやFacebook、情報誌の活用をし、地域の子育て世代の知りたい情報を配信できるよう努めます。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	他の行動目標と共に情報共有を行いながら子育て支援に繋がるよう協働連携して参ります。				
	今後 の方 向性	期間	今後の方向性の説明		
		5年 7月 ～ 6年 3月	子ども食堂等において、子育て世代の交流の場および、子ども達が他世代と関わる中で安心して人との繋がりを学べる機会が存続できるよう社会福祉協議会としてのサポート方法を検討し、地域の子育て支援向上を目指して参ります。		
	年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
令和5年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					